

# 第3回市町村議会議員特別セミナーに参加して

## (報告書)

さる平成28年1月28～29日、大津市唐崎にある全国市町村国際文化研究所で開催された表記の研修会に参加した。4つの講義と初日の夜の交流会という二部構成で、

講義1 これからの地方自治 大阪大学教授 北村亘氏

講義2 まちの魅力を世界に発信 ギネスワールドレコードジャパン社長 小川エリカ氏

議員交流会

講義3 鳥取県の元気づくり 鳥取県知事 平井伸治氏

講義4 補助金に頼らないまちづくり カールプラザ(株)代表取締役 岡崎正信氏

以下概略を報告する。

講義1 タイトル:「これからの地方自治」

大阪大学教授 北村亘氏

国会での1993年の地方分権推進に関する決議以来様々な取り組みがなされてきた。地方自治体への権限移譲

や事務移管、国地方挙げての行政改革に取り組んできた。しかし人口減少と人口の都市集中は止まらず地方は衰退し、限界集落が増え、2014.6の『中央公論』緊急特集では日本創世会議の発表した「523の市町村が消滅する」との報道がなされた。20～39歳の女性が減少する限り人口減少は止まらないと…。

これを防ぐには地域資源の再発見、地域産品の高付加価値化、歴史的な成り立



ちなどを付加価値に折り込み、伝承物語に創作してゆくことが必定。地域ブランドの確立により地域に若者が住める経済的環境を整えなければならないと。

また、どこでも同じ質と量の行政サービスを提供することが限界に近付いている。提供できる地域とできない地域を峻別しねければならない時代に入りつつある。「不便を厭う市民はインフラの整った地域へ世帯移動してください。」ということが現実味を帯びつつある。

国がグランドデザインを描き、地方が個別具体的な計画を策定してこの問題に早急に取り組むべきだとおっしゃっていた。



## 講義2 タイトル：「まちの魅力を世界に発信」

ギネスワールドレコードジャパン社長 小川エリカ氏

日本の素晴らしさを世界に伝えたいとギネス認定の公式認定員として働き、2012年日本オフィスを立ち上げ代表として「まちおこし日本（ギネス世界記録で地域活性化）」という地域応援的な事業を展開している。

ギネスへの挑戦には次のような効果がある。

- ★ 地域の一体感を高める
- ★ 集約力をアップできる
- ★ 地域のPR
- ★ 海外への発信
- ★ チャレンジの楽しさを伝える

など、感動を共有したり、人やまちの新たな発見につながるギネスブック登録への一連の活動を行い、これを公式認定員に判定してもらおうという事業。

例えば世界一長い恵方巻きを作るとか、世界一多くの人間で海峡を泳いで渡るとか、公式認定員立会いの下、ともかく世界一の記録をうちたてるというようなことを実施し、これをギネスブックに登録する内容。

その成果は世界の人々に自己や地域の存在を大きくアピールでき、そのことにより人々や地域の自信を回復し、これにより地域を活性化するというものである。

## 議員交流会

初日の講義を終え、全員集合の交流会となった。280人にも及ぶ市町村議員さんたちの中で知った方はいない。同僚と複数で参加した議員さんはそれなりに楽しそうだったが、一人参加の私は話し相手がいない。かといって見知らぬ議員さんとそう話せるものではない。ほどほどに名刺交換をし、ほどほどに世間話をするしかない。そこで横にいた議員さんと名刺交換、選挙は大変、奥さんを説得するのが一番の仕事と変に話がつながった。名刺を見ると兵庫県宍粟（しろう）市の議長さんだった。反対側にいた議員さんにも話しかけたが、何とも話が続きがくしゃく。千葉県館山市の新人女性市会議員さんだった。解散してふと考えた。百戦錬磨の議長さんとは楽しく話せたのに、新人女性議員さんとはうまくゆかない、これはどうして？ 答えは簡単だった。思いやる気持ちが私には欠けている。延べ10年近く議員をやり年もそれなり、もっと周りに気を使ってやらねばと反省…。

### 講義3 タイトル：「鳥取県の元気づくり」

鳥取県知事 平井伸治氏

「スタバ」は無いけど「すなば（砂丘）」はある、などと駄洒落を連発しての知事のまちづくり講話には、既成概念を払拭し新たな地域づくりを模索するという強い意思が見受けられた。豊かな自然に囲まれた鳥取県の県産品ブランド作りに力を入れ、高付加価値化を推進している。「県民参画基本条例」を制定し、重要な選択をするときには県民投票を行えるようにした。平成22年度から3年連続で全国市民オンブズマン連絡会議の「情報公開度調査」において全国1位を獲得した徹底した情報公開を実施し、県と県民の情報の壁を取り払うことに全力を注いでいる。その一つの成果として「アドボケイトプランニング」、県民と県が課題解決への街づくり計画を提案、若者、女性を含めた協働でその事業に取り組むという仕組みを実施している。

また、国が違憲と言っていた危険ドラッグの全面禁止を断行し、国を変えさせた実績もある。

知事が最後に語られた「地方は先駆者たれ！」の言葉に感銘を受けた。

### 講義4 タイトル：「補助金に頼らないまちづくり」

岩手県紫波町 ガールプラザ(株)代表取締役 岡崎正信氏

とにかく破天荒な講師であった。発想の逆転というか、既成概念からの脱却というか、失敗例の本質を詳細に分析し、問題点を洗い出し、その対策を緻密且つ大胆に実行してゆくリーダーと見受けられた。

例えば、官製の再開発、箱物作りはまちを破綻させる。よそのまねではない地域の特性を生かした独自のプランを作ること。人が集まり、住み、稼げるまちづくり、仕入れて売る商売から、作って売る商売への転換を！地域からお金が出ることを極力防ぎ、お金が集まる仕組みを作る。特に公共施設は普遍的な集客力を持っており、保有する公共財産を最大限生かすことが重要と。

この結果、地価が上がり地域が活性化する。

4人の講話を拝聴して、行政職員の責任・役割りの大きさを感じながら、それにもまして政策を決定してゆく議員の責任はもっと重いものだと痛感させられた研修であった。この学びを市政に活かすよう頑張る所存である。



なお、今回の研修は撮影が禁止され講義風景の写真が取れなかったため、風景写真に留まった。

平成28年2月5日

田川市会議員 植木 康太